

総本山智積院 内局御一行年賀に来山

去る一月十八日、真言宗智山派・総本山智積院より、芙蓉良英宗務総長をはじめとし、高麗行真教学部長、笹沼弘憲教化部長、三神崇法法務部長、久保田剛士財務部長、近藤昌俊宗務出張所長が来山されました。

御一行は、山内僧侶・職員の出迎えを受け、菅谷執事長と当山書院・松の間にて新年のご挨拶を交わされ、しばし歓談の後下山されました。



当山書院にて新年のご挨拶を交わされる

院内散歩⑬

～薬王院の展示物～



木版画『春めく有喜苑仏舎利塔』
作・井堂雅夫

奉納御礼 北島三郎さんより胡蝶蘭が届く

演歌界の大御所・北島三郎さん（八王子市在住）より、胡蝶蘭一对を御奉納頂きました。この胡蝶蘭は、昨年の十二月二十四日、中山競馬場にて開催されました競馬のG1レース、「第六十二回有馬記念」において、北島さんの愛馬である、キタサンブラック号が見事に優勝を果たした御礼として、当山へ奉納されました。



なお、キタサンブラック号はこのレースを最後に引退し、今後は種牡馬として活躍が期待されています。

おはなし散歩道

芋がゆ、とろり

湯沢町 富樫あい子

「おお、寒い晩じゃー！
婆さまが一人で芋がゆを炊いておった。
とろり とろり 甘い
いい匂いがしておる。」

山里で暮らす婆さまは、爺さまに先立たれ、子どもにも恵まれず、ひとり暮らしだった。
雪が消えると、庄屋さんの畑作を手伝い、冬は外仕事がないので慎ましく暮らしておった。
いろいろに薪をくべると、

「こんばんは」
子どもの声があった。
「どちらさまかのお」
婆さまが戸をあけると、ヒューッと吹雪が舞い込んできた。見る可憐い女の子が雪まみれになっ

て立っておった。
「あれまあ、寒かろうに、早く入れ！」
女の子は、すばやく中に入ると、雪を払った。

深々おじぎをすると、
「私は今日から庄屋さんのお手伝いに来た者です。早速お使いにきました」
「くろくろさまじゃのお」
（おや？ うーん？）

つい、さつきも庄屋さんのお使いで女の子が来たんじゃないかと、婆さまは首を傾げておった。
その時、あまりの寒さに、とろりと炊いた芋がゆを、ちゃわんによそい、ごちそうしてやっただばかりじゃったが……？

「里は、どこじゃ」
婆さまは、尋ねた。
「武州の山奥です」
「いくつじゃ」
「九つです」
「それは大変じゃったのお。ところで用事は？」
「はい、明日の豆まきにきて下さいとのことですが、さつき来た女の子と同じ用件じゃった。」

「はい、承知しましたえ。吹雪の中ご苦労さんじゃったのお」
（庄屋さんは物忘れが……いや、わしを思っただことだ。二人も使いを出すなんてありがたいのお）
すっきり気をよくした婆さまは、この女の子にも「おあがり」と芋がゆをごちそうした。

さらさら、ほわほわ、おいしそうにべろりと食べてしまった。
婆さまはうれしくなり、「大変な吹雪じゃ。よく温まっていくがいい。あすの朝、早く帰るもい」
「ごちそうさまでした」
女の子は、食べ終わると、こっくり、こっくり、気持ちよさそうに居眠りしておった。旅の疲れが出たんじゃないろう。

婆さまは三度目の芋がゆを作ろうと芋袋に手を入れると、



「からっぽじゃ。ふふふ」と笑い、寝ている女の子に自分の半てんをかけて、芋の入らないおかゆを炊きだした。
とろり とろり ほんわかとおかゆが炊けて、やつと婆さまが食べようとしたときじゃ。
「あら、あら、ちらら……」
こっくりこん こん

女の子が寝返りを打つと、はらはらと落ち葉が散らばったんじや。
「ははくん。そうだったのか……」
寝ている女の子の尻に、ちよろつと可愛いしっぽが見えたのだ。

キツネが化けるときは、

葉っぱを頭にのせておまじないをするらしい。
婆さまは、葉っぱを拾い上げおかゆのついで頭にべたりと貼り付けておまじないをとなえた。
女の子に戻ったキツネは気持ちよく寝ておる。
翌朝は、吹雪もやんで豆まき日和じゃった。
「お世話になりました。一足先にもどります」
女の子が、お礼をいって帰ると、雪道には可愛いキツネの足あとがついておった。
「また、おいで」
婆さまは、にこにこ顔で見送ったという。
（さし絵・小出茂）